

領域開拓プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

◆課題:「認知科学的転回」とアイデンティティの変容

◆研究テーマ: 創発的知性としての「群衆の智慧」: 集団意思決定による社会と個人の変容

研究期間: H29.10~H32.9

委託費総額: 13,163千円

### <研究代表者>

齋木潤: 京都大学大学院人間・環境学研究科 / 教授



<専門分野>

認知科学

<Webページ>

[www.cv.jinkan.kyoto-u.ac.jp/site/](http://www.cv.jinkan.kyoto-u.ac.jp/site/)

### <研究目的・概要>

- ・群衆の智慧: みんなの意見は結構正しい
- ・集団意思決定が合理性を欠く場合も多い
- ・スマート社会のために個人・集団に求められる条件は?



**集団意思決定の創発機構を解明し、スマートな集団・個人の創成を目指す**

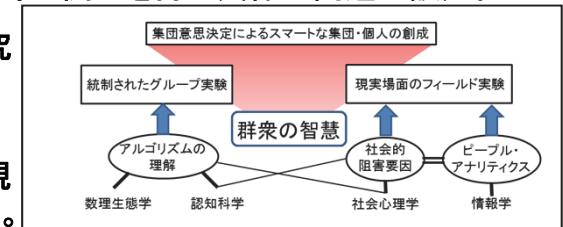
- ・認知科学・社会心理学・数理生態学・情報学の連携による集団意思決定のアルゴリズム・変容機構の解明
- ・フィールド調査・実験・数理モデルの併用による「よき変容」を阻害する社会的要因を回避する方策の探求
- ・ICTを利活用したフィールド調査、研究手法の開発



**認知科学研究の知見や技術の活用により社会・個人のアイデンティティの前向きな変容に貢献する**

### <研究計画の特徴>

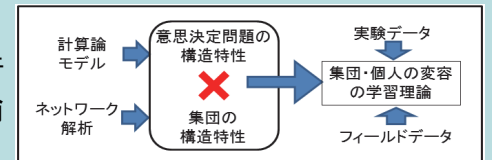
- ・個人・社会両レベルの複雑性を保ちつつその関係を緻密に理解することで個人と社会のより完全な理解を先導する。
- ・「群衆の智慧」: 複数分野が関心を持つ具体的問題の設定。
- ・実験室とフィールド研究の成果を先端技術を用いて一体的に統合する。
- ・学術的成果と並んで現実場面への応用も志向。



### <目標とする研究成果>

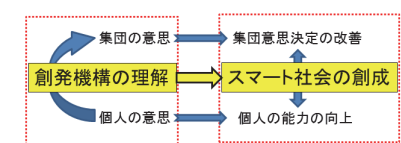
(1) 集団意思決定の変容を説明する学習理論

解くべき意思決定問題の構造と集団構造の関連性に着目して意思決定の学習理論を構築する。



(2) よき変容の阻害要因を除去しスマート社会を創成

実験・理論研究を現実社会のフィールドに展開し、スマート社会を構築する方策を提言する。



### <将来展望>

心理学・情報学・生態学の連携による「集団創発知性学」関連領域(政治学、法学、経営学)への展開、拡張